母校をたずねる

コンプレックス 原動力に

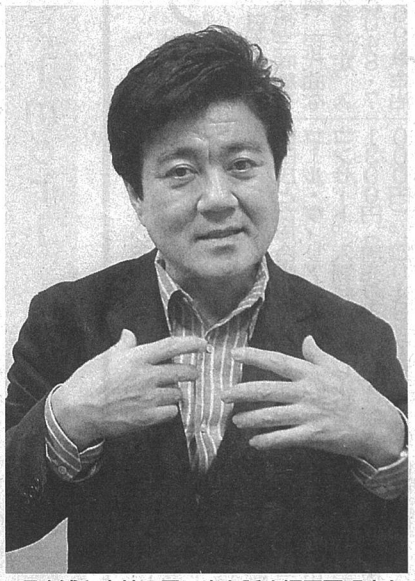
埼玉県立浦和高校 1

フリーキャスター 堀尾正明さん 1973年度卒

4月からリニューアルした「ぐるっと首都圏」にようこそ。金曜日の新企画「母校をたずねる」は、2カ月替わりで各地の高校をたずね、卒業生にインタビュー。学校の伝統行事なども紹介していきます。今月と来月は、開校以来男子校を貫く伝統校、埼玉県立浦和高校（さいたま市）。卒業生もそれ以外の人も、それぞれの高校時代を思い出しながらお読みください。【森有正】

県立浦和高校というと、東大への進学者が多い。一般には勉強ばかりしているというイメージでしょ。でも僕は、サッカー漬けの3年でした。

浦和はサッカーが盛んで、僕がいた頃は県立浦和、市立浦和、県立浦和西、市立浦和南が競い合っていました。本気で全国大会を目指し、放課後はほぼ毎日練習。修学旅行も試合で行けなかった。チームの最高記録は3年生の時の県大会ベスト8。ベスト4入りを懸けた試合では0―1で浦和西に負けました。サッカーの元日本代表で、Jリーグの監督としても活躍していた西野朗さんは同学年で、この時の浦和西の選手でした。今も悔しい思い出です。



県立浦和高校の思い出を話す堀尾正明さん＝東京都港区のＴＢＳ内で

ほりお・まさあき　1955年生まれ。早大第1文学部を経て81年NHK入局。95年開始の「スタジオパークからこんにちは」の司会で人気に。2008年にNHKを退職し、現在フリー。TBSの夕方の報道番組「Nスタ」のメインキャスター。日本テレビの「誰だって波瀾爆笑」にも出演。

勉強の方は、当時、学年に400人ぐらいの生徒がいましたが、300番台の低空飛行。高校入学までは学力に自信もあったけど、浦高は優秀な人ばかり。「世の中には自分より優れた人がたくさんいて、自分は思っているより大した人間ではない」と気づかされた。

それに気づくと、勉強以外で自分をどうアピールするかを考えるわけです。サッカー以外にも、文化祭でのフォークデュオ、近くの女子高との合コンの幹事など、いろいろなことをしました。自由な校風で、制限なく何でもやらせてくれた。その代わり、自分で責任を取れという感じでした。

サッカー以外で強く印象に残るのは、古河強歩大会です。強歩といっても制限時間があるので、歩いていては間に合わない。「古河マラソン」と言っていました。3年生の時、勝ちにいこうと思いました。仲間と励まし合い、14位で完歩した。サッカー部内でトップでした。

強歩大会のほか、最長距離2キロの遠泳をする臨海学校など、浦高には一見、理不尽な行事が多いです。ただ、今考えると、社会に出ると理不尽なことばかり。「理不尽なことにどう立ち向かうか」「コンプレックスをどう力に変えていくか」を、知らず知らずのうちに学んだ気がします。

男だけの3年間。さまざまなタイプがいる400人のなか、切磋琢磨できたのは、貴重な経験だったと感じます。

伝統の50.2キロ強歩大会

仲間と限界に挑戦

堀尾さんだけでなく、県立浦和高の在校生・卒業生が一様に「最も印象に残る行事」と口をそろえるのが「古河強歩大会」。毎年11月の第1日曜日にさいたま市浦和区にある同校から、茨城県古河市まで50・2キロを全校生徒で〝歩く〟。日光街道沿いにどこまで行けるかを競った1936年の「耐久競走」が起源で、8年間続いたが、戦争で中断した。

しかし、生徒の要望で59年に復活。距離はフルマラソンの42・195キロより長く、7カ所の「関門」を制限時間内にクリアしなければ先には進めない。ゴールの制限時間は7時間。体力、精神力、ペース配分の判断力。すべてを問われる。

大会には、メダルも賞状もない。唯一もらえるのは到着順の番号と「祝完走」と書かれたカード1枚のみ。「優勝」という概念はなく、1位も「先頭到着者」と呼ばれるだけ。大会が他人との戦いではなく、自分との戦いだからだ。教師も「人と比べるのではなく、昨日の自分と比べよ」と指導する。

コースが県をまたぐため、昨年は県警や保護者、OBなど650人以上が大会に協力した。生徒を応援しようと、沿道で15年前から梨を提供する農家もある。同校PTAの森佳子・体育部長は「初完歩した生徒が友人たちに歓声で迎えられる姿や、他の生徒が帰路に就く中で延着者の仲間をじっと待つ姿などに胸が熱くなった」と話す。

昨年大会の完歩率は82％。生徒やOBは「一緒に走ってくれた仲間に感謝」「自分の限界に挑戦できた」と、振り返る。

＝次回は8日に掲載します

昨年11月に開かれた強歩大会の様子＝県立浦和高校提供

「尚文昌武」 教育理念に

埼玉県第一尋常中学校として1895年に設立された旧制浦和中学校が前身。戦後、県立浦和高校となる。通称は「浦高」。埼玉県の公立高校として最古の歴史を誇る。国内有数の進学校で、県の進学指導をリードする。新入生歓迎マラソン、臨海学校での遠泳、強歩大会など多くの伝統行事がある。「文を尚び、武を昌んにす」を意味する「尚文昌武」が教育理念の一つ。